

東海鉄道OB会報

第6号
平成18年7月



飯田線 湯谷温泉～三河横原間 名古屋機関区支部 加藤銅一

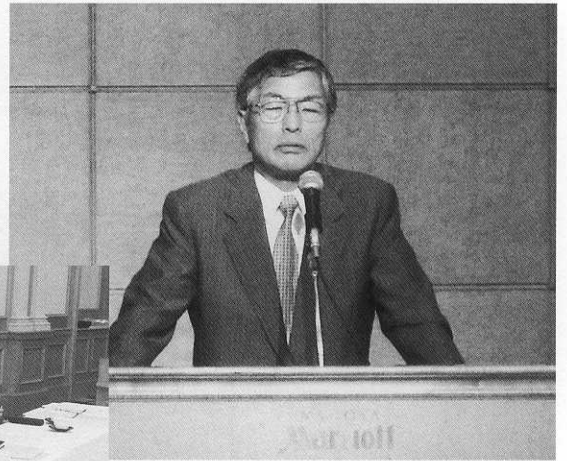
目次

平成十八年度 東海鉄道OB会総会及び会長表彰式	2
平成十八年春の生存者叙勲受章者	3
富士支部定期総会開催 富士支部 井出利巳	4
鮮やかなシンボルマーク 東海鉄道OB会旗の下で 平成十八年度第一回沼津支部例会開催 沼津支部長 赤羽隼雄	4
藤枝支部 「伊勢神宮・熱田神宮初詣の旅」 藤枝支部事務局長 増田彰司	4
「早咲きの河津桜と観音温泉の旅」 四日市支部事務局長 岡田幸大	5
JR東海トピックス	6
グループインフォメーション	9
読者のひろば	11
駅探訪／「会報への寄稿、 文芸欄への投稿」要領／編集後記	16

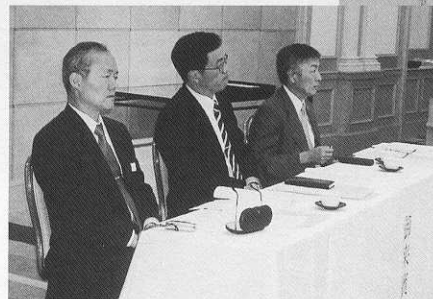
**平成十八年度
東海鉄道OB会総会及び会長表彰式**

東海鉄道OB会では平成十八年度総会及び会長表彰式を、五月二十三日（火）、名古屋マリオットアソシアホテルで開催しました。

総会及び会長表彰式には、ご来賓としてJR東海から石塚代表取締役副社長様、金子取締役総務部長様、小出総務課長様のご出席をいただき、本部からは会長、各副会長（各地方本部長）、専務理事、会計監査員、事務局長、各地方本部事務局及び各地方本部の代議員十五名が出席して総会を開催しました。総会は平成十七年度中に物故された会員五百七名、準会員五十四名に対する冥福祈念を行った後、役員とご来賓を紹介して始まり、まず堀内会長から組織改編後の一年間を振り返り、また、この先OB会の進むべき方向、やるべき事柄等についての挨拶があり、



続いてJR東海石塚代表取締役副社長様から、JR東海の現状とOBに対する励ましのお言葉を頂いた後、議事に入り、事務局から「平成十七年度東海鉄道OB会事業報告」と「平成十七年度東海鉄道OB会本部収支決算表」について説明があり、これを受けて中川会計監査員から監査結果の報告があつて、審議の結果、これを承認。引き



続き「平成十八年度東海鉄道OB会本部基本方針案」と「平成十八年度東海鉄道OB会本部予算案」について主旨と内容を説明し、審議していただいたところ、本部提案の原案が満場一致で承認され、総会を終了しました。

承認された平成十八年度東海鉄道OB会本部基本方針は、次のとおりです。

- 平成十八年度東海鉄道OB会本部基本方針
- 東海鉄道OB会の基礎確立と組織の充実
- 会員相互の親睦、特に支部活動の活性化
- 会員増強運動の積極推進
- 東海旅客鉄道株式会社及び関連グループの事業への協力、特に増収協力活動の推進
- 東海鉄道OB会報の充実



続いて、平成十八年度東海鉄道OB会会長表彰式に移り、東海鉄道OB会に顕著な貢献をされた四団体と、個人三十名の方々に、会長より表彰状と副賞が、授与されました。会長表彰受賞者は、次のとおりです。（以下敬称略）





一 特別功労章

特別功労章はOB会の運営、発展に特に抜群の功績があり、他の会員が等しく認めている方に対して、特別功労章を贈り顕彰する最高の荣誉で、本年度は次の二氏です



名古屋地方本部
高山支部 蓑輪 茂



静岡地方本部
沼津支部 関 朝彦



二 会員増強表彰
東海鉄道OB会の組織強化のため会員増強運動を積極的に実施し、その功績が顕著な団体又は個人に贈られる荣誉です。

【団体】

- 東海東京地方本部 運輸営業支部
- 新幹線メンテナンス東海分会
- 静岡地方本部 藤枝支部
- 東海大阪地方本部 運輸営業支部

三 清掃美化表彰

東海旅客鉄道株式会社及び関連グループ等の清掃美化等に協力し、その功績が顕著な個人又は団体に贈られる荣誉です。

【団体】

- 名古屋地方本部 高山支部

四 役員功労表彰

永年OB会の役員として、それぞれの組織の発展に功労があった方に対し、その功績に贈られる荣誉です。

〔静岡地方本部〕

- 長泉支部 沼田 好策
- 三島支部 渡辺 政義
- 沼津支部 小松 亀雄
- 富士支部 川上 惟幸
- 身延支部 山口 政美
- 静岡支部 大村 年璋
- 藤枝支部 原木スミエ
- 島田支部 大石 實
- 掛川支部 杉村 文二
- 磐田支部 鈴木 祐策
- 豊橋支部 山崎 信久
- 上伊那支部 山崎 清次
- 〔名古屋地方本部〕
- 三河支部 平岩 二造
- 千種名東支部 小出 春男
- 守山支部 渡邊 俊雄

- 名古屋機関区支部 東 義孝
- 名古屋資材支部 大川 國夫
- 西濃支部 棚橋 軍次
- 滋賀県支部 松本 義雄
- 岐阜工務局支部 高木 孝雄
- 尾北支部 加藤 金之
- 美濃太田支部 曾我 崎夫
- 高山支部 伊佐治勝巳
- 中津川支部 青山 茂
- 木曾支部 工藤 勇三
- 桑名支部 渡部 重信
- 四日市支部 岡田 幸大
- 松阪支部 廣瀬 茂次

総会及び会長表彰式の終了後、ご来賓、本部及び総会代議員等と会長表彰受賞者全員で、昼食懇談会に移り、まず、ご来賓のJR東海金子取締役総務部長様の激励のお言葉に続く、乾杯の発声で懇談会が始まり、一同和気藹々のうちに時間一杯懇談し、散会しました。

平成十八年度春の生存者叙勲受章者

東海鉄道OB会員で、平成十八年春の生存者叙勲を受章されたのは、次の三名の方です。おめでとございました。

- 瑞宝双光章 吉川英男様 (沼津支部)
- 瑞宝双光章 山下 清様 (名古屋工場支部)
- 瑞宝単光章 細井明德様 (遠州北支部)

富士支部定期総会開催

富士支部 井出利巳



五月晴れとはいかず、一寸残念な雨。(会員六十四名出席)

五月十三日(土)市内浅間神社樟泉閣において、本年度東海鉄道OB会富士支部総会を開催。

来賓として、JR静岡支社山田課長・太田富士駅長・岡本運輸区長・ツアーズ石田課長に、地方本部白井事務

局長、各氏のご出席を頂き、平成十七年度事業・決算報告、平成十八年度活動方針・予算(案)及び役員改選の議案を提出。採択のなかでOB会の主目的である会員の増強・親睦・情報交換・福祉・厚生等の推進で会員のより強い絆を確認するとともに、川上新支部長を支える副支部長・事務局長等の新役員にJR退職年代会員からの就任の承認を得て、今後の富士支部活動の活性化を進化を図る体制が整えられた。

総会終了後、懇親会場に席を移し、八十九才にしてパソコン現役の小林敦氏の乾杯の音頭で懇親会に入り、昨年十一月(例会)以来の旧交を温めた。

OB会活動の一端である、入山瀬駅西公園展示のSL「D51」の清掃ボランティア作業については富士市の財産としての認知支援を背景にリニューアルされ、年四回実施しているが、四月十三日の清掃後の地元各紙の報道では※「SL気持ちよさそう・銅管の細かい部分まで磨き上げ」※(静岡新聞)、※「わがまちの元氣、出発進行(動輪・主連棒の押さえ気味の光沢を

目の当たりにして、機関車の持つ力強さというイメージ、元氣創造のシンボルとしての存在感が、東海鉄道OB会富士支部によって、さらに増してきた。」※(富士ニュース)と、永年の取材関係を持つ新聞社から回を重ねて市民にアピールされている。

このように富士支部会員の活動が地域密着につながり東海旅客鉄道(株)の信頼・増収の一助として役立てば喜ばしいことと思っている。

鮮やかなシンボルマーク 東海鉄道OB会旗の下で 平成十八年度第一回沼津支部 例会開催

沼津支部長 赤羽雄雄

四月二十二日午前十時より市内大手町会館に於いて斎藤沼津市長、小尾静岡地方本部長を迎え、会員約八十名(内女性会員二十名)参加、新聞記者取材の中間催した。

冒頭、支部長は会員相互の親睦、福祉向上と会員増の必要性を訴え、各位の協力、特にJR退職者のOB



会組織の存在度不足を解消するため、地域活動の中で知名度向上に努めるよう訴えた。その後、物故者二十四名に黙祷し冥福祈念、新会員十四名を紹介、瀧澤吉三氏を議長に選出後、議事に入る。先ず十七年度の事業、会計、会計監査各報告。次に十八年度運動方針として昭和三十三年一月沼津支部発足、昭和六十一年会員数三百八十一

名をピークに本年三月末三百一十一名七十名減、年平均十六名減を会員各位の協力による新会員勧誘で純減四名に抑え、来年一月に満五十年を迎える。主な取組みは一、年金などの社会保障関連の変化への対応。二、会員の増強活動。三、JR各社及び関連会社への協力。四、「支部だより」の内容充実に努める。五、地域活動等に協力し、地域の発展に寄与する。六、沼津支部発足五十周年を記念し(一)JR利用の旅行(二)十九年カレンダー配布(三)十月二十一日支部大会には記念企画の取り入れ(四)ウォーキング等を示し、十八年度予算案を提案、承認、閉会した。

その後、定例の教養講演、農水省大木総括情報官による「地産地消について」を受講後、懇親会に入った。懇親の中、静岡県東部南宮玉すだれ愛好会一同による「玉すだれ」「マジック」「日本舞踊」ショーを觀賞後、小尾地方本部長を囲み、同じ釜の飯を喰った仲間が三々五々集まり爆笑談義のなか閉会した。なお、その模様は静岡新聞に掲載され、沼津支部の活動、OB会存在などがPRされた。

「地産地消」とは
産地で採れたものをその地で消化すること。

藤枝支部 「伊勢神宮・熱田神宮初詣の旅」

藤枝支部事務局長 増田彰司

今年度もJR増収協力の一環として、支部企画団体旅行を実施した。

二月十四日(火)・十五日(水)「伊勢神宮・熱田神宮初詣と海の味覚鳥羽・中部国際空港の旅」をジェイアール東海ツアーズ団体旅行に依頼し計画、昨年十一月下旬にパンフレットを全員に配布する。

今年の冬は思いの外、厳しい寒さに阻まれて参加希望が低調でしたが、締切りの一月二十日に至り、三十五名の参加希望者が集まり催行が決定した。

旅行当日は朝から快晴。風もなく昨日までの寒さも忘れたかの様な春の陽気。まさに出発から伊勢大神宮のご加護有りと一同元氣一杯、藤枝駅南口を出発した。高速道路も順調に進む。伊勢湾岸自動車道からは何処までも青く澄み渡る伊勢湾に名古屋港を眼下に、北には遠く名古屋の街並みを望む素晴らしい景色の中を一路伊勢へと向かう。東名阪自動車道へ入ると遠く真っ白な伊吹山が見え、近くに鈴鹿山脈が快晴の空に雪を頂く連峰を眺め、天候に恵まれたバスドライブは快適な走りです。予定期間に伊勢に無事到着した。

昼食後、岩戸家さんの案内で大神宮へ参拝に出掛ける。宇治橋を渡り玉砂利を踏みしめながら鬱蒼と茂る大木が拝殿まで続く。「何者の御座しますかは知らねども忝さに涙こぼるる」と歌われた古人の心境を少し感じながら厳かに全員参拝。各自思い思いの願いを込め、又OB会の益々の繁栄を祈願して先ず第一の目的を無事果たす。拝殿にて案内人から内宮の故事来歴に耳を傾け、次回平成二十五年の遷宮の場所を見学し内宮を後にする。平日というのに参拝客の多い事。意外と若い人たちが目立ち、日本人の神を敬う心を見て少し安心もした。バスが出るまでの時間「おかげ横丁」を



散策する。風景は変わっても今風の賑わいを見て大神宮様のおかげに納得する。バスは出発し旅館までの途中、二見浦の夫婦岩を見学して宿泊の鳥羽「戸田家」へ無事到着。まずは長旅の疲れを宿の温泉で癒す。夕食の宴席では見事なハーモニカ演奏あり、歌に踊りと多様な隠し芸に笑いと拍手の内に幕をおろす。各自部屋に引き上げてからも話題が続く中、鳥羽湾の夜が静かに更けて行つた。

翌日も春の花曇の暖かな日元気に出発、高速道路も快適、遠景も霧に包まれ、もう春が近いことを感じながら走る。名古屋市内で多少渋滞するも熱田神宮に予定時刻に到着。大都会の真ん中にこんな大自然が残っていることに驚きながら参道を進む。弘法大師お手植えの大楠を眺め、織田信長寄進の信長塀に桶狭間の合戦を偲び拝殿へ到着。三種の神器の一つ草薙の剣の鎮座する本殿に諸々の祈願を込めて参拝を済ませます。バスは常滑の「まるふく」に向う。ここで昼食。周りには常滑焼きの狸・雛人形・急須等数多くの焼き物を見学して出発。

最後の目的地の中部国際空港「セントレア」へ向かう。伊勢湾内に浮かぶ国際空港開港以来一年、愛知万博に海外からの人達を迎える窓口として大活躍した。フロアには多くのレストラン・ショップが並び見学するだけでも楽しい街が出来ている。最上階のスカイデッキでは次々に発着するジェット機を眺め、海外へ飛び立つ飛行機に細やかな夢を託して最後の見学地セントレアを後にし帰路につく。

途中刈谷PAで休憩を取り、大きな渋滞もなく予定時刻に藤枝駅に到着。又の再開を約し家路に着いた。かなり強行な旅であったが、高齢の方々を始め、参加者全員の協力により、事故もなく無事完遂出来た事、役員一同お礼申し上げます。又二日間、春の様な陽気に恵まれ雨にも降られず帰れたことも伊勢神宮・熱田神宮のご加護の賜と思っている。

(JR東海ツアー増収協力八十万九千二百円)

「早咲きの河津桜と観音温泉の旅」

四日市支部事務局長 岡田幸大

三月六日・七日、恒例の第十七回JR増収協力旅行「早咲きの河津桜と観音温泉の旅」をJR東海バスの手配で実施した。参加者は男性三十二名、女性十八名



の合計五十名。

当日は曇天、間もなく雨。ガイドさんの沿線案内に耳を傾けながら、話に花を咲かせ。富士川S.Aレストラン駿河路で昼食。やがてカラオケも始まって和気あいあい。

伊豆に入り、狩野川沿いに踊り子の道を下田へ向かう。山葵沢を横目に天城峠を越え、珍しい三重の河津七滝ループ橋を通過。雨が少し強くなったので、予定の河津桜観賞は翌日に延期し、車中から河津桜並木を眺める。バスは下田海岸道路へ。「唐人お吉」の悲話に往時を偲びながら宿へ向かう。

宿は奥下田の山間に佇む自家源泉掛け流しの一軒宿・観音温泉ホテル。早速肌がピロロドのようにツルツルになるという自慢の温泉に浸かり疲れを癒す。そして大宴会。懐旧談に話が弾む。やがて唄にダンス。大盛會。

翌日は快晴。まず河津河畔に咲き誇る河津桜を観賞。花はやや大きめの淡紅色。河畔の花のトンネル遊歩道を思い思いに散策。路端一面の黄色い菜の花とのコントラストも素晴らしい。

次いで中伊豆ワイナリーへ。広大なブドウ畑や伊豆高原の景色が一望できる。ゆったりとランチバイキングを楽しむ。ワイン工場を見学し、お好みのワインをゲットする。

見学日程はここまで。沼津ショッピングセンターに立ち寄ってお土産を買い求め、途中ビンゴゲームを楽しみながら来た道を一路四日市へ。

予定通り無事帰着。再会を約して家路に着いた。

(増収協力額・百四十万円)

JR東海ト

ピックス

JR東海総合病院

7月18日開院

新病院名決定、新院長就任

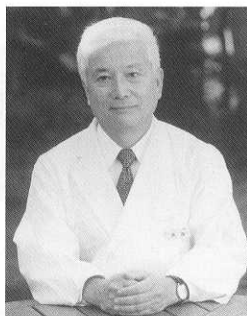
JR東海総合病院では、隣接地で進めていた新病院の建築工事が3月に竣工し、現在、医療機器の搬入やリハーサルなどに取り組んでいるところです。そして7月18日から新病院で外来診療開始の予定となります。

また、この機会に名称を「名古屋セントラル病院」に変更します。当社の英語表記からセントラルを採用して近代的な印象をもたせるとともに、より地域の方に親しまれる病院でありたいとの願いを込めたものです。

4月には齋藤英彦院長（前国立病院機構・名古屋医療センター院長）が新たに就任し、病院スタッフ一丸となって、新病院開院に向けての最終準備を進めてまいります。



新院長ご挨拶



JR東海総合病院 院長 齋藤英彦

新病院開院に際して各分野の専門医も陣容が強化され、より質の高い医療を提供します。

さらに、これらの先端医療機器を活用して、より充実した人間ドックメニューを提供することで、予防医療にも貢献します。

また、新病院では光と緑のあふれる開放的な空間を多く取り入れ、病室は全室個室とするほか、美味しく温かい食事を提供する新調理システムを採用するなど患者さまに快適な療養生活を送っていただけるよう配慮しています。この他にも電子カルテシステムの導入により院内の連携を迅速化して、患者さまの待ち時間削減を図るなど、様々な先進的な取り組みを行います。

私も、「患者さまの立場にたった、安心で、快適な、まごころのこもったサービスの提供」という理念のもと、安全まで、質の高い医療サービスを提供し、患者さまに常に選ばれる病院となるよう努めてまいります。

当院は名古屋鉄道病院を前身とした87年の歴史を有する病院です。平成元年からはJR東海総合病院として、社員・家族の健康維持や名古屋駅を中心とした地域医療への貢献を果たしてまいりました。

この度、救急医療体制を充実し、より高度な医療を提供するために、新病院を新築・移転して、名称を新たに「名古屋セントラル病院」として平成18年7月に開院することになりました。

新病院では、アジア地域で初めての導入となるMRI手術室設備（脳神経外科手術）や放射線を用いた癌治療装置、PET-CT（癌の早期発見に有効な検査機器）など数多くの先端医療機器を備えております。また、

◆ JR東海トピックス ◆

名古屋セントラル病院の紹介

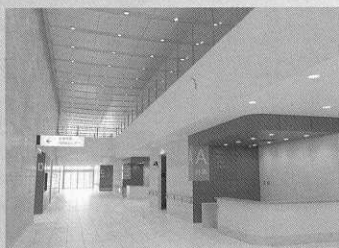
新病院建物の特徴

今回は3月8日に完成した新病院建物の特徴をご紹介します。新病院は地上10階、地下1階建の構造で、現病院と比較すると病床数(198床)は同じですが、総床面積は約1.4倍となり、ゆとりをもった設計となっています。外壁はガラス面を広く取ることで、院内を明るく開放的な空間としています。

新病院のシンボルともいえるエントランスホールは2階分の吹き抜け構造で、ホスピタルストリートへと続いていきます。新病院ではホスピタルストリート沿いに外来診療部門を集約させて、患者さまが迷うことなく、すぐに目的の診察室に到着できるように配慮しています。



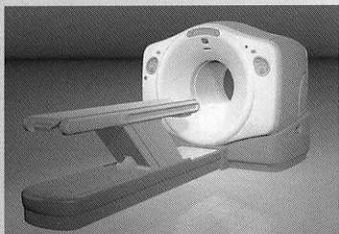
▲エントランスホール



▲ホスピタルストリート



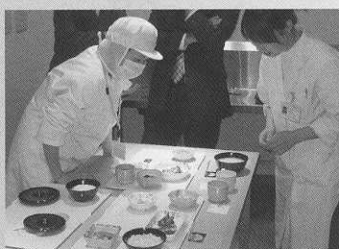
▲アジア初導入の脳神経外科手術設備「ブレインスイート」



▲がんの早期発見に威力を発揮する「PET-CT」



▲病室はホテル並みの設備(写真は特別個室)



▲新調理システム用のメニューを開発中

先端医療機器の導入と地域貢献

名古屋セントラル病院は、高度先進医療の提供を通じて地域社会へ貢献することを目標としています。

現在、J R東海総合病院では100以上の地域の医療機関と連携を図りながら、地域一体となった医療サービスを提供しています。具体的には、症状が軽い患者さまはまず地域の医療機関(かかりつけ医)にかかっていたり、検査や手術など高度な医療が必要な場合に当院へ紹介していただくシステムです。

新病院においても、最先端医療機器を導入するとともに、専門医を増強して他病院との差別化を図り、地域の医療機関との連携をさらに進めていきます。

その結果、新病院に導入される資源(人、医療機器など)を効率的に活用することができ、病院の健全経営に貢献することにもなります。

快適な入院環境を提供

名古屋セントラル病院の総ベッド数は198床で、その全てが個室となります。個室化により、全ての患者さまに静かで快適な環境の提供が可能になるとともに、感染症防止など治療上の効果も期待できます。一般病棟の個室には全てシャワー・トイレを完備した充実した設備となっています。有料の個室では、電話、インターネット端子が備え付けられている他、TVや冷蔵庫などは無料で使用することができます。

一方、患者さまに提供する食事も従来の病院食の概念を変えるものになります。従来の病院食は厨房で調理されて患者さまの元に運ばれてくる間に時間がたって冷めてしまう場合があるのですが、新病院では新調理システムを採用して、患者さまに提供する直前に加熱することにより、安全で適温の食事を召し上がっていただくことを可能としています。

◆ JR東海トピックス ◆

新幹線鉄道事業本部

お客さまの多様なニーズに対応した「さらに快適な車内空間」の提供

「N700系」量産車の仕様決定

当社とJR西日本は、平成14年6月から次世代の東海道・山陽新幹線直通車両となる「N700系」の共同開発を進め、平成17年3月から量産先行試作車を用いた走行試験を実施してきましたが、計画通りの良好な結果が得られたため、量産車の仕様を決定しました。

「最新・最速・省エネルギーのハイテク車両」をコンセプトに、最新の技術を導入した新しいサービスを開始するとともに、お客さまの多様なニーズに対応した「さらに快適な車内空間」を提供します。

「くつろげる、安らげる、上質な車内環境」の実現のため、さらなる乗り心地向上と車内の静粛性向上、全座席禁煙と喫煙ルームの新設、グリーン車のグレードアップと普通車の快適性向上を図ります。



▲「N700系」車両



▲グレードアップされたグリーン車



▲増設されたモバイル用コンセント

「ビジネスパーソンにとって最高の車内環境」の実現のため、モバイル用コンセントの大幅増設、背面テーブルの拡大を図るとともに、車内インターネットサービスの検討も行っています。「さらに快適にご利用いただくための充実したサービス」として、多目的室・多目的トイレのスペース拡大とオストメイト対応設備の新設、荷物の拡大、車内防犯用カメラの新設などを行います。

また、「N700系」は、「エアロダブルウイング形」先頭形状・全周ホロ・台車スカートの採用などにより、700系に比べて19%もの省エネルギー化が可能となりました。

このように、「N700系」では地球環境保全の面でもさらに優れた車両となっており、今後編成数の増大により、極めて大きな省エネ効果をもたらし、地球環境保全にも大きく貢献してまいります。現在、平成18年4月から車両の耐久性を確認する試験を実施しており、平成19年にはデビューする予定です。

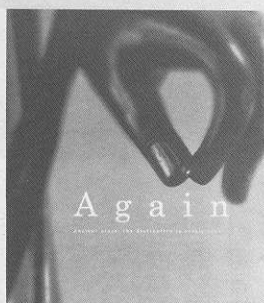
広報部

「うましうるわし奈良」キャンペーン 「薬師寺」篇を展開！

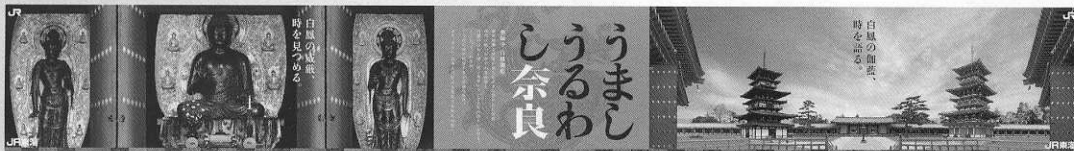
5月中旬より、「うましうるわし奈良」キャンペーン第4弾となる「薬師寺」篇を展開していきます。創建当時の姿（東塔）と1300年後の姿（西塔）を同時に見られるという薬師寺ならではの魅力をはじめ、再建された白鳳伽藍や国宝の薬師三尊像などを紹介し、旅へと誘います。

5月末から6月中旬にかけては、首都圏・静岡地区を中心に、TVC MをはじめJR京浜東北線1編成まるごと借りきりの車内広告や主要駅への大型パネルの掲出など、これからの展開にもどうぞご期待ください。

また、今年1月の「東大寺お水取り」篇TVC Mの放映以来ご好評をいただいています。「うましうるわし奈良」キャンペーン「Again」が、シングルCDとして5月31日に発売されました。当社ホームページで試聴ができますので、ぜひ一度お聞きください。



楽曲名：「Again」
発売元：ユニバーサルミュージック㈱
発売価格：1,000円
※レコード店の他、ジェイアール東海エージェンシーのWebサイト (<http://traindo.com>) でもご購入いただけます



▲「大型パネル」の写真

///グループインフォメーション



安心と信頼のテクノロジー

新幹線エンジニアリング(株)

当社は昭和60年に設立され、JR東海の新幹線車両の検査・修繕を主体とした業務を行っています。社員数はJRからの出向者114名を含め約350名。全社員一丸となって車両品質の向上に取り組んでいます。

業務機関としては東京都品川区の大井車両基地内に東京支社、大阪府摂津市の鳥飼車両基地内に大阪支社を置き、当初は、3万キロ毎に行う車両の定期検査における客室サービス機器の検査・修繕が主体でしたが、現在は台車関係部品の検査・修繕並びに台車交換を行うなど、車両品質に係わる業務も実施しています。

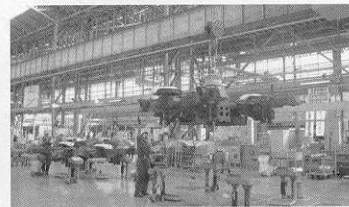
近年は技術力を活かし、300系7号車と11号車のサービスコーナー改造などの各種工事を施工し、安心して信頼され快適な車両を提供するとともに、平成14年度には東京支社においてISO9001の認証を取得し、現在は大阪支社での認証取得を目指しています。



▲室内設備検査作業



▲車軸探傷作業（車軸のキズの有無を検査）



▲台車枠のクレーン搬送作業

今後は、車両メーカーや部品メーカーとの技術交流を図り業務の拡大を推進するとともに、将来における新規業務開拓並びに新技術開発に向けた研究についても積極的に行い、経営基盤の強化に取り組んでいきます。



おかげさまで「パルシェ」は創業25周年

静岡ターミナル開発(株)

当社は静岡ビル「パルシェ」と沼津ビル「アントレ」の2店を管理運営している会社です。

静岡ビル「パルシェ」は昭和56年10月の創業以来、今日まで地域の皆さまに愛され、ご利用いただき四半世紀である25周年を迎えようとしています。

そこで、当社はこれを節目として創業月の10月を中心に、社を挙げて感謝セールや記念行事を開催します。具体的な内容は現在検討中ですが、これら各種の催し等を通して、お客さまに「パルシェ」をご愛顧いただくとともに、社員・テナント従業員が一体となり接客技術等のレベルアップを目指すことで、モチベーションを高めたいと考えております。

今後ともお客さまから「やっぱりパルシェ」、「やっぱりアントレ」と言っていただけるように、皆さまに支持される新規テナントを積極的に

導入していく他、既存店についても改装やMD変更に取り組み、館の鮮度アップを図ります。

今年の当社の合いことばは以下の通りです。

「感謝」 感謝の気持ちを大切に

ありがとうございますを言うこと

「愛情」 物、人、店を大切に

愛情を持って接すること

「勉強」 一人ひとりが勉強してプロに

社員をはじめ全従業員を販売員としても、

一社会人としてもしっかり教育すること



▲パルシェ外観



▲入口



▲食彩館



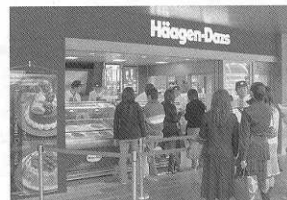
Bellmart

新業態店舗・充実の品揃えで皆さまをお待ちしています！

東海キヨスク(株)

私たちの会社では、これまでのキヨスク店舗からコンビニエンスストア「ベルマート」への業態変更を進めてきました。また、一昨年末からは名古屋駅や新大阪駅、静岡駅で「ギフトステーション」をはじめ、「グランドショップ」「ギフトキヨスク」といった新しい店舗ブランドを立ち上げ、それぞれ特色を持たせた店舗づくりを行ってきました。

ここ最近では、静岡駅にアイスクリーム専門店「ハーゲンダッツショップJR静岡駅店」、東京駅一番街にはカフェ&スタンディングバー「フロントイルバル八重洲地下店」を出店するなど、新しい業態の展開も進めて



▲ハーゲンダッツショップJR静岡駅店



▲フロントイルバル八重洲地下店

います。

今回、ここで紹介しました店舗名をぜひ覚えていただき、旅行や出張で駅を利用された際には「あ！この店舗はキヨスクが運営しているんだ」と、思い出してください。ご来店をお待ちしています。

これからもオリジナリティーあふれた魅力ある商品を開発し、皆さまがご利用しやすい店舗づくりに努めてまいりますので、よろしく願いいたします。



いつも、とっておきの富士山が待っています。

※写真は「富士見山から見た富士山」

いつでも誰でも気軽に参加できる **参加費無料** **予約不要** **列車利用が便利**

身延線沿線トレッキング

富士と甲府を結ぶ身延線の沿線には、トレッキングにぴったりの魅力あふれる山々が勢ぞろい。雄大な富士山の眺めや迫力の大がれなどが楽しめる個性豊かな全11コースをご紹介します。光射し込む木立を抜けて、とっておきの景色を探しに行きませんか。

トレッキング スタンプ キャンペーン

ガイドブックを手に身延線沿線トレッキングに挑戦!

抽選で合計**20名**様に素敵なプレゼントが当たります。

募集期間
2006年8月31日(木)まで
当日消印有効

STKコレクションアシスタント
チェア
コンパウト軽量タイプで、風通しのよいメッシュ生地を使用!


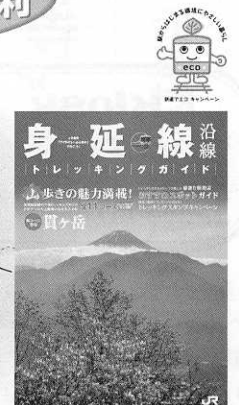
アメリカンステンボル&蓋付二重マグ
真空断熱構造で保温力抜群! マグも便利な蓋付。

A賞 10名様
カブポルター付

B賞 10名様



JR東海「ワイドビューふじかわ」で行こう!
平成18年3月18日ダイヤ改正で静岡～甲府を結ぶワイドビューふじかわ号は、すべての停車駅を統一。さらにご利用しやすいダイヤに。

▲詳しくは駅にある専用パンフレットをご覧ください。
JR東海ホームページ
<http://jr-central.co.jp>

読者のひろば

六十四年昔の思い出

稲沢支部 横井義昌

昭和十七年春、国内は日本軍の南方方面における連戦連勝のニュースで沸き返っていた。

三月二十日新川国民学校高等科を卒業し、二十七日枇杷島駅へ出頭。島田駅長から「四月一日付で日給一円五銭の傭人として採用され、職名は枇杷島駅駅手となる」旨説明を受けた。鉄道には全くの無知な新米職員には先輩の駅手が指導者となって、駅清掃、手小荷物の運搬、列車への積卸の諸作業を指導してくれた。農家育ちの私にとっては連日の徹夜の厳しい勤務であった。特に未熟な作業のため列車を遅らせるようなことは絶対に許されなかった。

何とか一通りの作業を覚えた四月十八日午前、突然空襲警報のサイレンが沢山鳴り出した。駅の中では警戒警報無しの防空演習が急に始まったなあ、と言う話で持ち切りであった。

私は手押車を引いて通路を渡り、ホームの名古屋寄り端に上ったとき、北東の方から見たこともない大きな飛行機が飛んできた。私は「やあ大きな飛行機が飛んできた」「プロペラが二つもある大きな飛行機が飛んできた」と駅内、ホーム派出の中に聞こえるように大きな声を張り上げ叫んだ。駅中の職員が飛び出して来て空を見上げた。飛行機の乗務員の姿もはつきり見えた。

飛行機は鉄道の上まで来なくて、直ぐ近くの国道上空あたりで方向を名古屋城の方へ変えて飛んで

行った。城に近くなったところで高射砲による要撃が始まった。飛行機を追いかけるように砲弾が炸裂する様子がよく見えた。航跡には弾幕が一杯広がり空は黒い煙で覆われた。

しばらくすると名古屋運輸事務所司令室から、今の空襲は米軍飛行機による本当の空襲であった旨知らされた。

名古屋城の近くからは真黒な煙がもうもうと上り、大きな火災が発生していた。この火災は翌日も燃え続けた。

翌日の新聞で初めて、米軍のB25双発爆撃機が日本本土を爆撃し、大陸へ逃走したニュースで様子が分かった。

苦労は必ず報われる

袋井支部 鈴木不次男

退職して二十八年、今まで元気でこれたのも考えてみると町村の大きな役を勤めたからだと思えます。

農家に生まれ育ちながら、農業の事は何も知らない。そんな人が先ず農業委員をやり会長も勤めました。最後は農業協同組合の専務理事も受けざるを得なくなり勤めました。

加えて十二の組合が合併という大きな問題がありましたが、先輩や経験者の協力で無事終わりました。勿論農業者や経験者の方々のご協力ご支援の賜物と思っております。考えてみるに、これも旧国鉄当分の苦労で育まれた根性と度胸の賜物と思っております。農協

を去って、ヤレヤレと思ったら、突然数人の役員が夜間来て、文化協会の会長をやってもらいたいという話でした。これには突然であるし私も妻も驚きと困惑いたしました。

一晚考えさせてくれということでも考えた末、これも受ける事になりました。当時町の一般道路の拡幅ということでその委員長をやっておりましたが、受ける事にしました。協会の一部変更改革も行いましたが、無事勤め終わりました。やはり旧国鉄時代の苦労がこの場も十二分に生きていたと深く感謝しております。私が農協専務の就任の挨拶に職員の前で最初言ったことは、「私は農協農業の事は知らない。皆さんにも苦勞かけさせると思うが、よろしく協力してくれ。」と挨拶した事を忘れていません。考えてみると苦勞し、経験と度胸がつけば何処に行っても通用すると痛感しました。同時に今になって旧国鉄当時の苦勞、特に労務管理が大きく役に立った事を感謝しております。

機関車人生を終えて

名古屋機関区支部 大橋欽一

四十一年に及ぶ鉄道の闘い「機関車人生」を無事乗り終え、今は一骨の閑居老人である。

律義なSLを操り操つられながら果てしない鉄路を直に大勢の仲間助けられ、時にはパセティックなSLドラマを演じながら人並みの人生行路を走り続けた。

退職後は平穩な老い二人の生活であった。ふだん、心身健康のときや、さして家庭内に波風が立たないときは夫婦というものをあまり意識しない。しかし、何か問題が起これば夫婦ゆえの「情」が重々しくのしかかり、複雑なかかわり合いも増し、それが互いに心の負担になってくる。

それあらぬか、老いは残酷な一面をのぞかせた。頭脳も感性も変らないつもりなのに一昨年暮れ、耐え難い腰痛に襲われ受診したところ、すでに腰椎、両下肢の一部に転移した「前立腺ガン」を告げられ半ば諦念しつつあるとき、十年前、妻が「右乳ガン」全摘出し完治したと思つた矢先、またまた「左乳ガン」発症、両乳房を失った。

こうなると今までの健全生活が一変する。ということは絶えず繰り返す不安と孤独のはざまに揺れ動くことだと気づきながらも、幸せとは何だろうか、自身自身を突き放したくなる嫌悪感にさいなまれ、ふと頭をよぎったのが「幸せな家庭は似通つたものだが、不幸な家庭はそれぞれが違う」アンナ・カレーニナの書き出しであった。

ここまで考えれば無為自然に生きられないと、まとも諦念感がひしひしと漂う。

そんな折、小心、偏屈男に妻が決然と言つた。「私はあなたより先に逝くかも知れません。心残りは足腰不如意なあなたを置いてゆくことです」この言葉に私は慌てて（この俺は、どうなるのだ…）思わず口に出かき愕然とした。

これは残念なことに安穩と妻任せの老人男性の多くに当てはまることではないだろうか、そう思うほどに夫婦が五十年余も幸せに生きる難しさを切実に知らされたことだった。

手元に古びた十数冊のSL乗務日記がある。そこから過ぎし記憶の彼方を追い遠い汽笛を呼び戻し、学力も文才もないのに激動の半世紀をSLと共に生き抜いてきた「確かな証」として自伝ともつかぬ小冊子を孫たちに書き残して置かねばとペンを握り締めた。

大変な手仕事となるだろうがやり遂げたい。私を知る人たちは「強く生きろ」と励まし力づけてくれる。ありがたい極みである。しかし、強く生きるこ

のか、強さにも鋼のごとき強じんさもあればピアノ線のようにしなやかな強さもあると考え、齢、八十を数え、馬齢、駄齢を重ねてきた今も「昔日去来」夢の中で若い日のSL機関士に返る。そこには誰も解体できぬ私だけのSLが生き続けている。この先、妻との二人三脚は遅々たる歩みだが、決してこのまま「醉生夢死」に終わることなきを念じている。

汽笛

長泉支部 宇津木弘利

動力車が動き出す時、汽車が発車する時、必ず汽笛を鳴らす。でも今は黙って動き出す。一時廃止された車掌の手笛が復活して、懐かしい思いがする。

御殿場線（昔東海道本線）は二十五ミリの日本では信越本線・奥羽本線に次いで急勾配。五十両の貨車を前二台後一台の計三台で二十五ミリ勾配を時速十八キロで上つてゆく機関車は特別製で、四汽筒複式で前使った蒸気後のシリンダーへ送る珍しい米国製で沼津機関区に二十四台配置されていた。

急カーブ（四百米のSカーブ）と急勾配、裾野と岩波（当時信号所）中にSカーブがある。之が難所で一台が空転すると他の二台も之に続き汽車は自然停車。さあ大変、動き出すのに先頭の機関車が長緩汽笛で発車を促し三台息を合わせ、やつとの思いで動き出し十八キロの速さで五分十分の遅れで御殿場へ。運転中、後の機関車を切り放す離れ業、成功すれば長緩汽笛で本務機関車に知らせ、ホッとす。

遅れを○に

それから駅へ行き、○にと頭を下げる。当時日本の鉄道は時間正確世界一を誇っていた。

乗務員が運転中アゴヒモを掛けず運転して乗務停止一日。出勤時間三分遅れで当日乗務停止。厳罰の中にゆとりもあつた。

子供と汽笛

御殿場線のSカーブ付近、一年生位の子供が家から出てきて乗務員に手を振つた。こちらも手を振って応える。子供はうれしそう何か暖かいものを感じ乗務の楽しみの一つであった。それで何時の間にかSカーブに近づくと汽笛を鳴らし子供に知らせる。そんな時代感一入である。子供の出来ない時、何故かと心配したものだ。

あれから七十年、あの少年は八十を越したろう。一度ぜひ会いたい。

踏切と標式

踏切は大半無人で、今の様な設備がなく「きしゃに注意すべし」と書いた立板があつた。その後その文面から「すべし」が消えた。文面に問題があつた様である。その立板の効果は不明？

よく大人が無理に渡り、汽車の通過を眺めている。犬がよく同じ事をやる。この人間と犬とどっちが偉いだろう。

汽笛と火事

私の家は線路から一〇〇米位。昭和六年八月の夜中に後押しした機関車が単機で走ってきた。けたたましい汽笛に何事と起きたら、五十米先の小学校が火の海。火の粉が我が家へ（家は萱葺き）。急いで屋根に上り、火の粉を払い、焼けないで済んだ。有難い汽笛今でも忘れる事が出来ない。

蒸気機関車の汽笛には何か哀愁の響きがあり音の風物詩でもある。

「汽笛一声新橋を…」あの鉄道唱歌を是非、永久に残し鉄道マンは歌い続けたいものである。

身障者下山賞を受賞

長泉支部 加藤恒夫

第五十六回身障者下山賞に当支部元副支部長の沼田好策氏が受賞。全国で受賞の栄に輝いたのは四氏で、



平成十七年十月十九日、東京都千代田区麹町の弘済会館において表彰式が行われた。沼田さんは昭和十二年に就職。昭和十五年二月真鶴駅において入換作業中、左前腕を連結器に挟まれ切斷。若き十九歳の時であった。昭和十五年七月小田原駅に復職。その後昭和二十三年結婚し、念願の掛職試験に合格。小田原駅出札掛を拝命した。片手での出札業務に不安を感じたが、持前の明るい性格と努力により、昭和四十年には助役試験に合格。保土ヶ谷駅出札主任を経て、昭和五十年には茅ヶ崎駅出札助役の重責を果たし、昭和五十二年に退職した。

その後、日本旅行に入社。六十歳で第二の仕事退職後、普通運転免許を取得し、地域の活動を開始。昭和五十七年から長泉町高齢者生きがい相談員を始めとし、長泉町交通安全会会長、昭和五十一年静岡県東部地域（十三町村）のシルバー人材センター設立を中心的な活躍で完成させた。

平成九年から長泉町身体障害者福祉会会長、平成十三年から静岡県東部（十三町村）身体障害者福祉会副会長、平成十四年から長泉町社会福祉協議会理事などを歴任し、会の充実強化、身体障害者の良き相談相手として活躍。長泉町社会福祉協議会、静岡県身体障害者福祉会等より数々の表彰、感謝状を受賞している。OB会地区役員として支部役員会をリードしまとめる立役者であり、会員から絶大な信頼を得ると共に支部の運営に貢献している。現在、長男夫婦と同居。良き

配偶者、家族に恵まれ八十四歳を迎えた。健康に注意し、退職後身につけた日本画を趣味として楽しんでおり、しずおか健康長寿財団から日本画部門最高齢者賞を受賞している。

受賞にあたり静岡新聞「この人」欄に「高齢者でも障害者でも、やれることは自分でやる。どんどん外へ出て、趣味を楽しんだり、活躍する場を求めたりする気持ちが大切である」と述べている。

今後とも、「負」を「負」とせず当支部の会員の範として活躍されることを祈念する。

注【身障者下山賞】

鉄道業務中の事故で負った障害を乗り越え、社会福祉に貢献した功労者に鉄道身障者福祉協会から贈られる賞。

今年の豪雪に会い思うこと

西濃支部 藤田年樹

雪は豊年の貢ぎ物と言って、昔は歓迎された時代もありましたが、今年の雪は「白魔」と言う名前前で各地で猛威を奮っております。

大寒の前に既に全国で百人を超す尊い犠牲者を出す大雪となっております。

私も現職の時は多雪地帯の勤務で、今でも大雪の例として挙げられる三八・五六豪雪を経験してきました。

丁度今から五十年前の三十五歳の頃でしたが、その当時は気象情報も今みたいに「衛星」からの電波もなく、小範囲の情報も無く、全国的な大まかな気象伝達だけで、昔から言い伝えられてきたような、例えば「寒中（小寒から大寒まで）の月夜の晩は大雪が降る」とか、雷がなれば「雪起こし」だと言った雪が降る前兆とか言って警戒をしたものでした。

当時の国鉄も冬を迎えると、カンテラを用意したり、縄で編んだ担架を準備したり、地方の人を除雪

要員として確保したり、又職員を対象とした対策では、除雪動員計画として、第一動員では運転関係の職員だけで構内の除雪をする。第二段階では営業関係の職員を一部加えた動員になり、最後の第三段階になると、夜間に交替で休養している者も全員が起こされて除雪するという態勢が取られて、当日勤務者全員で線路の確保に努めたものです。

私は営業関係の職員でしたので、動員が出ると腰まで積もっている雪の中をスコップを持って構内へ入り、信号掛からトクバックで「何号のポイントが変わらない」と連絡が入ると、構内に慣れていないので私はそのポイントが何処にあるのか分からず雪の中を右往左往して除雪した経験があります。

又積雪の多い構内では列車の接近の音が防寒帽やタオルで頭を覆っているため分からず危険な思いをした事も再三ありました。

又、三八豪雪の際は北陸線が豪雪の為、何日間か不通になり、名古屋地区の保線関係の職員の方がスコップを持って米原経由で北陸線の除雪の応援に多数入れ、開通に向けて努力されました。

今年のような大雪に見舞われると、今は家の中から降り積もる雪を眺めながら、五十年前の現職時代の雪解けの苦労がよみがえってきます。

残日録

陶都支部 磯崎和典

ベルギーで生まれた「小便小僧」はダイナマイトの導火線の火を消火し、民衆の危機を未然に防いだ「勇氣」を称えての像である。

昭和二十三年一月二十五日真昼の事、大垣駅を二十分遅れて発車した京都市行き一三五列車が南荒尾信号所を通過し、上り線高架下のカーブを抜け、千分の十の長い上り勾配に差しかけた時である。後ろから二両

目左側窓下の暖房覆い板付近から、突如煙と共に赤い炎が立ち上り満員の乗客が騒然となる事故が発生した。食糧難時代の車内は通路・網棚や腰掛の下までも荷物で足の踏み場もない状態。列車は遅れを取り戻そうと限度一杯の力行運転。走れば走るだけ隙間だらけの車内は風圧を受けて赤い炎が一段と煽られる。煙を被った一人が風呂敷状の布で炎を叩くが衰えるどころか反対に火勢が強まる気配。あれよあれよと言うだけで手の打ちようがない。「誰か、水筒の水はないか」「車掌を呼べ：列車を止めよ：」と口々に叫んではいるが走行中の満員列車ではままならない。とその時である、一人の乗客が火勢近くの腰掛に飛び上がり、やにわにズボンのボタンを外すと同時にホース？をつまみ出して、いきなり放水し始めたのである。途端に車内が一瞬シーンと静まり返った。乗客は祈りを込めて注視した。豊富な水量と的確な水さばきが幸いしてか、さしもの火勢もみるみる衰え煙に変わり、走行風圧とともに車外へ流されていった。覗き込んでいた近くの一人が「もういいぞ：」と片手をあげて放水停止の合図を見せたが、水道のコックを捻るようにはいかなかった。再度「もういいぞ」と、通路の荷物を移しながらの叱り声、更に吹き込むすさまじい風に乗って水滴が隣の腰掛にまで降ってくるのではないか。まわりの視線を一斉に受けた水源の主は满面苦渋、歯を食いしばっての懸命な表情、一瞬覚悟を決めてズボンの中に仕舞い込んだ。

一月二十九日の中日新聞は「今朝の話題」欄でこの珍事を紹介。その末尾に乗客談話として「これが女性客ばかりであったら、どうなっていた事だろう」と結んでいる。まさに日本版小便小僧である。ちなみに火災の原因が気になって調べたら、同年一月十三日の新聞に「名鉄局の貯炭場は空っぽ。一部列車が運休の危機に減車で当分をしのぐ」の記事が出ており、石炭事

情悪化から昼間の暖房は中止されていた事を知ったので付記しておく。

以上は書き留めた古ノートからの抜き書きである。「たれか昭和を想わざる」の念を深くする。腹を空かせ、よい服を着たいなどの切実な思いで生きてきた時代の頃が甦る。そして翌二十六日の項にはあの帝銀権名町支店での毒殺強盗事件の悲劇を記録保存していた。

この時期、情報にも渴望していたためか、手当たり次第のメモ書きが残っている。それが今ではお荷物となり即刻処分が必要に迫られた運命にある。「静かな諦めの心境」にはほど遠しの残日録である。

小さな庭からのメッセーじ

高山支部 袁輪 茂

徳富先生の「吾家の富」の一節に「家陋なりといえども膝を容るべく庭狭きも碧空仰ぐ可く歩いて永遠を思うに足る」この文章を学んだ少年時代に大人になつたら、きつと小さくても庭を持つときつく心にとめたものでした。

幸いにも親のお陰でこの夢が叶い、便利な町の真中に然も城山つゞきの山麓に小庭をもつことができて、六十余年を超えて忙中に閑を求めて朝な夕な自然の息吹を吸い自然を觀賞し思索し限りなき愛着を覚えております。

秋も深まり紅葉も散りはじめ、柿も日増しに色づく頃、今年もまた赤とんぼの小群れが庭へやってきました。赤とんぼは初夏に羽化して新緑の山へ向かい、高原で夏をすごし気温が二十度を切るようになるとふるさとで産卵のため山下りにかかるといわれます。吾家の庭の日だまりでまどろみ、やがてとまり、たわむれた草花や山上の夢を見つ、静かに短い一生を閉じていった姿が庭のあちこちにいくつも見る事ができます。

また、つるうめもどきの真紅の実がはじけて黄色い皮とのすばらしいコントラストを見せてくれる頃になると庭に雪虫が舞います。そんな頃、庭のとび石の周りにある小さな穴から産卵を終えたらしいコオロギが顔を見せませす、もうすぐ雪が降るぞ早く石の下へもぐれよと話しかけるのです。きびしく長い冬も明けて、やがて春の光に柔らかい黒い土が見え出す頃、残雪をかたづけていると毎年のように米つぶの半分くらいの大ささのコオロギの赤ちゃんが飛びはねる姿を発見するのです。石の下にもぐった彼女らもきつと生まれたかわい子供達の夢を見ながら一生をとじていっただろうと想像したり、ここには詩があり絵がありメロデーもあります。

雪も消え始め雪見灯ろうの笠が見えてくると庭いじりが始まります。やがて露のとうが顔を出し、水仙がまつ先にこぼし、梅桃桜山吹と続き将に百花繚乱、蝶も舞い、間もなく風かおる新緑、裏の竹林には竹の子も姿を見せ、あずき菜の新芽、山しょうの若芽の香り、つゆにぬれた額あじさいの鮮やかな花の色、やがては日ぐらしの初啼きがうれしい、庭木の枝に蟬のぬげがらが見える頃になると蟬しぐれがやかましい。ダイマとんぼも気持ちよさそうに訪れ、藤棚へは色々な蜂が通い、四十雀は一家そろってむくげの枝へ給食にくる。池には蛙も水すましも主の如く住みこみ、笥から落ちる水の音は涼を増し、手づくりの灯ろうの灯も池に水鏡してゆれて情緒も増し、五、六年前の夏の朝おしどりの赤ちゃんが六羽も池で泳いでおりびつくりしたごと、ある秋にはどこからきたか石亀が池で越冬して姿を消した等々、春夏秋冬二十四節気折々の移り変わりに一輪の花の美しさに虫一匹の命に生の営みに天地の妙を見いだすとき時、私達もやっぱり大自然の神秘な力によって生かされている身に感謝の念を忘れず老うほどに貴重な時を大事に生きたいと念ずる昨今です。

短歌

降る雪は今日も昨日もまた明日も

老は籠りて唯風まかせ

恙がなく生かされ命いだきて

念仏唱え降る雪見つむ

滋賀県支部 谷川虎太郎

変なくて夫婦となりて五十年

協力しつつ生きてゐるなり

気の若きつもりでおるに若き人

どうぞと言つて席を譲りぬ

沼津支部 山田寿男

兵の日の二人の写真はセピア色

战友の絆は老いて変らず

足奏えの老いの連れ行く柴犬が

歩調合せてとつとつ走る

裾野支部 池谷秀夫

底冷えの伊賀城苑の俳聖殿

偲びて詠まぬ紅葉の樹々を

鈴鹿川バルーンフェスティバル彩鮮やかに

空染めつ歓喜の渦まく

四日市支部 小川 勇

空の青エメラルドの湖仰ぐ氷河

心の栄養たつぷりもらう

雪上車に肩を並べて氷原を

行けばうたかたの恋の心地す

津支部 岡 俊雄

ひさびさの車掌の姿に安らぎぬ

ワンマン電車も走る単線

峡の駅ホームに山吹なだれ咲き

指差確認のきわ立ちて見ゆ

上伊那支部 竹内滋一

俳句

金賞の札付け駅長菊飾る

三賞に洩れたる菊も咲きほこる

菊活けて今年限りで無人駅

津支部 濱口義徳

客去りて独り居さみし年の暮

歩み来て八十路の峠初日出

雨か雪伊吹嶺閉ざす冬の雲

名古屋臨港支部 伊藤鈴登

冬麗の富士を遥かに峠越え

熱燗や旧友と語りし三国志

木枯や肩寄せ会ひし道祖神

浜松東支部 大倉照二

秋深し亡き夫への一句かな

見ゆる山見えざる山も紅葉す

天高し庭師鮮やか木の手入

春日井支部 秋田漾子

うす紅を轍へ引くや桃畑

郭公や山より暮るる峡の村

松越しの富士ゆるやかに小春かな

富士支部 田中義作

春の蚊や眉しづかなる佛達
春浅き酒倉匂ふ星夜かな
朝寝して偽りのなき暮しかな

桑名支部 南川 彰

川柳

国赤字いつも標的お年寄

鏡見て昔はあった黒い髪

四日市支部 小川 勇

清流も大河となつて濁り水

遺伝子の変化を願う親心

岐阜工事局支部 弓桁英二

復唱で何とか防ぐ物忘れ

譲り合う車内の空気透き通る

沼津支部 山田寿男

完走を目指す夫婦の時刻表

行く先に合わせ余生の道普請

美濃太田支部 三島次朗

七十路の飾ることなく進む道

余生こそ我が青春とふやす趣味

笠寺支部 稲塚正一

黄昏に悩みを捨てるため歩く

俄雨見知らぬひとと相合傘

津支部 宮田孝也

老境に税の木枯らしばかり吹き

診察の決り文句がお年です

富士宮支部 渡辺定善



東海道本線 おかざき 岡崎駅

●開業/明治21年9月1日
●所在地/愛知県岡崎市羽根町東荒子

名古屋から快速列車に乗ること30分弱、列車は矢作川(やはしがわ)を渡る程なくして岡崎に到着。橋上化された近代的な駅舎が迎えてくれた。愛知環状鉄道線への乗り換え駅でもあり、0番線からは豊田・瀬戸・春日井方面への列車が運行されている。岡崎市は愛知県のほぼ中央部に位置する西三河地方の中心都市。大正5年に県下3番目の市として誕生、以来発展を続けて平成15年に中核市に移行。今年1月1日には隣接する額田町と合併し、市の総面積が大幅に広がった。



岡崎の特産物として全国的に有名なのが八丁味噌。古くから東海道と矢作川が交わる八帖町(旧八丁村)で生産され、三河武士に親しまれたという。2年以上という長い熟成期間を要する点が他の味噌造りと異なり、独特の風味を醸し出す。4月からは岡崎を舞台にしたNHK連続テレビ小説がスタート。聞けば愛知県が連続テレビ小説の主な舞台になるのは初めてのこと、ロケが行われた八丁味噌の蔵元をはじめ、地域が寄せる期待も大きい。
春を迎えた岡崎の楽しみといえば、岡崎公園一帯と伊賀川堤を中心に咲き誇る約1700本の桜だ。4月15日まで開催される「桜まつり」期間中は夜桜照明が行われ、ライトアップされた神秘的なソメイヨシノを楽しむことができる。4月9日には「桜まつり」最大のイベントである「家康行列」が行われ、郷土の英雄・徳川家康公に率いられた1000余名の武者や騎馬の行列が華麗な時代絵巻を繰り広げる。

「会報への寄稿、 文芸欄への投稿」要領



支部及び会員からの寄稿

1 「表紙写真」

会報誌の表紙写真に使用する写真を会員から募集しております。それぞれの会報誌発行時季にあつたもので、画面に列車等が入っているものは限定しませんが、JR東海エリアの地域内が好ましいと希望します。カラーB5サイズ以上一枚、ポジフィルム、デジカメデータ(解像度A4サイズで三〇〇DPI以上)送付別紙に所属支部、氏名、住所、電話番号を記入し添えて下さい。

なお、複数応募いただいた場合には会報編集委員会にて採用選考させていただきます。

また、お送りいただきましたものうち、ポジフィルム、デジカメデータ記録媒体については、後日お返しいたします。

2 「支部便り」

支部総会、増収協力旅行、清掃美化運動、事故防止運動、会員交流会等支部からの「たより」を随時受付いたします。テーマ、内容等は自由ですが、六百字目途でまとめ、執筆者氏名を明記して下さい。なお、活動の状況がわかる写真がある場合は一枚添えて下さい。

3 「読者のひろば」

会員から「情報、体験談等」の寄稿を随時受付しています。テーマ、内容等は自由ですが、千二百字以内、挿絵、写真等の掲載希望はいずれか一枚以内

金谷支部 坂部庸夫

とし、所属する支部、氏名及び住所、電話番号を明記して下さい。

4 「絵手紙」

会員から「絵手紙」の募集をしています。応募は、随時受付していただけます。色彩が鮮明なものを歓迎いたします。応募年月日、所属する支部、氏名及び住所、電話番号を明記して下さい。

5 「短歌、俳句及び川柳」

会員から「短歌、俳句及び川柳」の募集をしています。

応募は、会報発行毎に、一名種別ごとに官製葉書一枚に、短歌は二首、俳句は三句、川柳は二句以内に限ります。記入の際に、「冠部に「短歌」「俳句」「川柳」と朱書して下さい。

応募葉書には、応募年月日、所属する支部、氏名(フリガナを付し、本名も記入する)及び住所、電話番号を明記して下さい。

6 寄稿及び投稿先

〒四五〇〇〇〇二二
名古屋市中村区名駅三十三十二
キヨスク名駅ビル内
東海鉄道OB会・会報編集係宛

【注】寄稿または投稿された作品等は、順次会報に掲載いたしますが、応募状況や紙面の都合等により、掲載が遅れる場合があります。また誤字等は修正させていただきます。なお、寄稿または投稿された原稿は返却いたしません。

編集後記

会報第六号(七月号)の編集と今後をお願い

東海鉄道OB会も二年目に入り、会報も第六号をお送りすることができました。今回は平成十八年度東海鉄道OB会総会と会長表彰式の概要をはじめ、投稿いただいた記事で誌面が賑やかになりました。これも「会員で作る会報」が定着してきたこと、JR東海及び関連グループからは引き続きニュース提供をいただき、いろいろ参考となる会報とすることができました。会員一同感謝いたしております。今後につきましては、より多くの皆様から投稿をいただき、より一層充実した誌面にしていきたいと考えていますのでご協力を願います。

一 会報表紙の写真は積極的に寄せ下さい。「会報への寄稿等の要領」を参考にし、ご応募下さい。
二 OB会活動の原点は支部における活動です。さらなる活性化を図るため、どの支部でも結構ですから、参考になる支部の運動方針や活動状況を是非投稿して下さい。
三 地方本部総会、支部総会が開催されていると思います。その概要等を投稿していただき、お互いの参考にはいかがでしょうか。
四 会報第二号と今回、絵はがきを載せました。好評であり、多くの方の投稿をお待ちしています。

五 最近JR東海を退職し、OB会に入会していただいた方々のフレッシュな便りをお待ちしています。
六 短歌、俳句、川柳を多くの方々から幅広い応募をお待ちしています。
七 会報誌編集に関するご意見、ご要望などを是非お寄せ下さい。

(杉浦)

発行 千四五〇〇〇〇二二
名古屋市中村区名駅三丁目三十一十二
キヨスク名駅ビル内 東海鉄道OB会本部
発行人 杉浦 定行
電話 〇五二一五六二一六〇八〇 (FAX兼用)